

四国地方整備局 同時発表

平成29年11月21日
道路局道路交通管理課

中山間地域における道の駅等を拠点とした自動運転サービス
道の駅「にしいや」・かずら橋夢舞台^{ぼしゆめぶたい}において実証実験をスタート
～国重要文化財と周辺観光施設を結び新たな観光の流れを創出～

道の駅「にしいや」・かずら橋夢舞台^{ぼしゆめぶたい}(徳島県三好市^{みよし})において
実証実験を12月3日(日)から開始します。

国土交通省では、高齢化が進行する中山間地域における人流・物流の確保のため、「道の駅」等を拠点とした自動運転サービスの2020年までの社会実装を目指し、全国13箇所で、順次、実証実験を行うこととしております。

今般、12月3日(日)から12月9日(土)までの間、道の駅「にしいや」・かずら橋夢舞台(徳島県三好市)において実証実験を実施します。実験では、国の重要文化財(祖谷のかずら橋)や観光拠点(かずら橋夢舞台)、宿泊施設等を結び、新たな観光の流れの創出に向けた検証等を行います。

実証実験の開始にあわせて、12月3日(日)に実験開始式を以下の通り行いますので、お知らせいたします。(概要は添付資料をご確認ください。)

[実験開始式]

1. 日 時 : 平成29年12月3日(日) 12時00分から
2. 会 場 : かずら橋夢舞台^{ぼしゆめぶたい}
(徳島県三好市西祖谷山村今久保345-1)
3. 主 催 : 道の駅「にしいや」・かずら橋夢舞台を拠点とした
自動運転サービス地域実験協議会
4. 概 要 : 挨拶、実験概要説明、実験車両説明、テープカット、
実験車両試乗会 等

※報道機関の方で取材、実験車両への試乗をご希望の方は、11月30日(木)17時まで以下担当へご連絡下さい。

四国地方整備局徳島河川国道事務所(TEL088-654-2211 担当:鈴木または江川)



※本実験は、内閣府戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)のプロジェクトの1つとして実施するものです。

問い合わせ先

国土交通省 道路局道路交通管理課 ITS推進室 馬渡・宮永(内線:37453、37462)
(代表)TEL:03-5253-8111 (課直通)TEL:03-5253-8484 FAX:03-5253-1617

実験開始式の概要

○日時：平成29年12月3日（日）12時00分～

○場所：「かずら橋夢舞台」駐車場

（徳島県三好市西祖谷山村今久保345-1）

○主催：道の駅「にしいや」・かずら橋夢舞台を拠点とした
自動運転サービス地域実験協議会

○式典

受付開始 11時30分～

式典開始 12時00分～

- (1) 主催者挨拶
- (2) 来賓挨拶
- (3) 実験概要説明
- (4) 実験車両説明
- (5) 記念撮影、テープカット
- (6) 実験車両試乗

※式典終了後、事前登録している報道機関の方々や関係者が実験車両に試乗。

※報道機関の方で、取材・実験車両への試乗をご希望の方は、式典会場への入場の際、駐車証が必要となりますので、11月30日（木）17時までに徳島河川国道事務所（TEL088-654-2211 担当：鈴木または江川）まで御連絡ください。

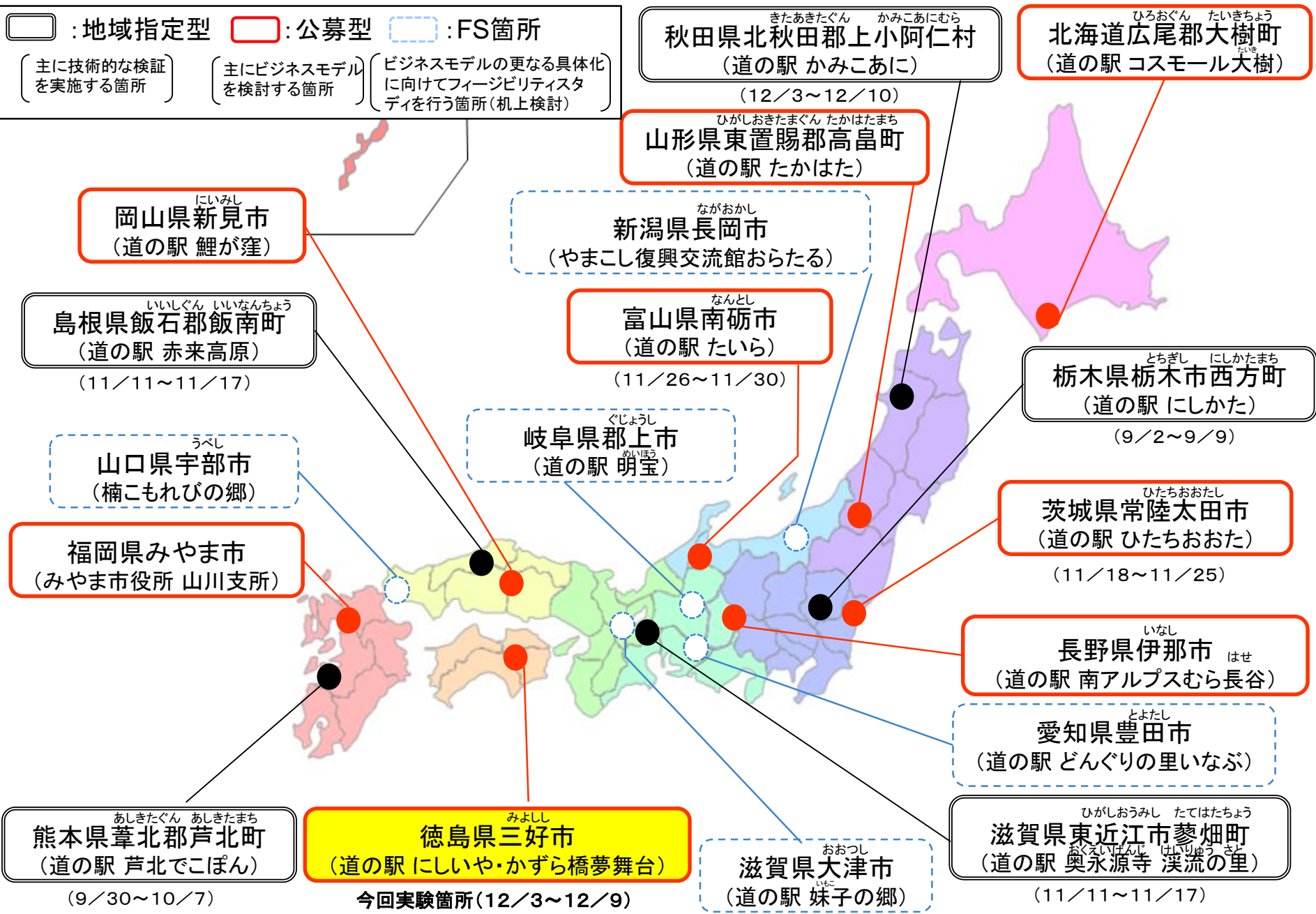


会場案内図（かずら橋夢舞台内に駐車場あり）

平成29年度 実証実験箇所 位置図

 : 地域指定型
 : 公募型
 : FS箇所

 (主に技術的な検証を実施する箇所)
 (主にビジネスモデルを検討する箇所)
 (ビジネスモデルの更なる具体化に向けてフィージビリティスタディを行う箇所(机上検討))



バスタイプ

①株式会社ディー・エヌ・エー



「レベル4」(専用空間)

「車両自律型」技術

(GPS、IMUにより自車位置を特定し、規定のルートを行
(点群データを事前取得))

定員: 6人(着席)
(立席含め10名程度)
速度: 10km/h程度
(最大:40km/h)

②先進モビリティ株式会社



「レベル4」(専用空間) +
「レベル2」(混在交通(公道))

「路車連携型」技術

(GPSと磁気マーカ及びジャイロ
センサにより自車位置を特定
して、既定のルートを行)

定員: 20人
速度[※]: 35 km/h 程度
(最大40 km/h)

乗用車タイプ

③ヤマハ発動機株式会社



「レベル4」(専用空間) +
「レベル2」(混在交通(公道))

「路車連携型」技術

(埋設された電磁誘導線からの
磁力を感知して、既定ルート
を行)

定員: 7人
速度: 自動時 ~12km/h 程度
手動時 20 km/h未滿

④アイサンテクノロジー株式会社 [今回使用]



「レベル4」(専用空間) +
「レベル2」(混在交通(公道))

「車両自律型」技術

(事前に作製した高精度3次元
地図を用い、LiDAR(光を用い
たレーダー)で周囲を検知しな
がら規定ルートを行)

定員: 4人
速度[※]: 40km/h 程度
(最大50 km/h)

レベル4: 運転手が運転席に不在で、車両側が運転操作を実施
(ただし、交通規制により一般車両を排除した区間に限定)

レベル2: 運転手は運転席に着席するが、ハンドル等を操作せず、車両側が運転操作を実施
(ただし、緊急時は運転手がハンドルを握るなど運転操作に介入)

※速度は走行する道路に応じた制限速度に適應

GPS : Global Positioning System, 全地球測位システム

IMU : Inertial Measurement Unit, 慣性計測装置

道の駅「にしいや」・かずら橋夢舞台 自動運転実証実験ルート(案)

(走行延長往復約7.2km)




運転手が監視しながら自動走行
(自動運転レベル2)

- ハンドル・アクセルは自動(緊急時は介入)
- 一般車・歩行者との混在区間を走行

[往復7.2km]

【実験車両】



○アイサンテクノロジー(株)

【実験スケジュール】

○12/3(日)

- ・12:00~ : 実験開始式

○12/4(月)~12/5(火)

- ・9:00~15:00 : 10便(往路5、復路5)
- ・16:00~ : レベル4走行(乗客無し)

○12/6(水)~12/9(土)

- ・9:00~16:00 : 12便(往路6、復路6)

※1便あたり10分程度で走行
※乗車モニター約140名(予定)

目視による遠隔操作で自動走行
(自動運転レベル4)

- 運転者が車外で発進・停止の操作を実施 (Wi-Fi通信を用い、目視で走行状況を確認)
- 緊急対応用に係員が助手席に乗車
- 専用空間を走行

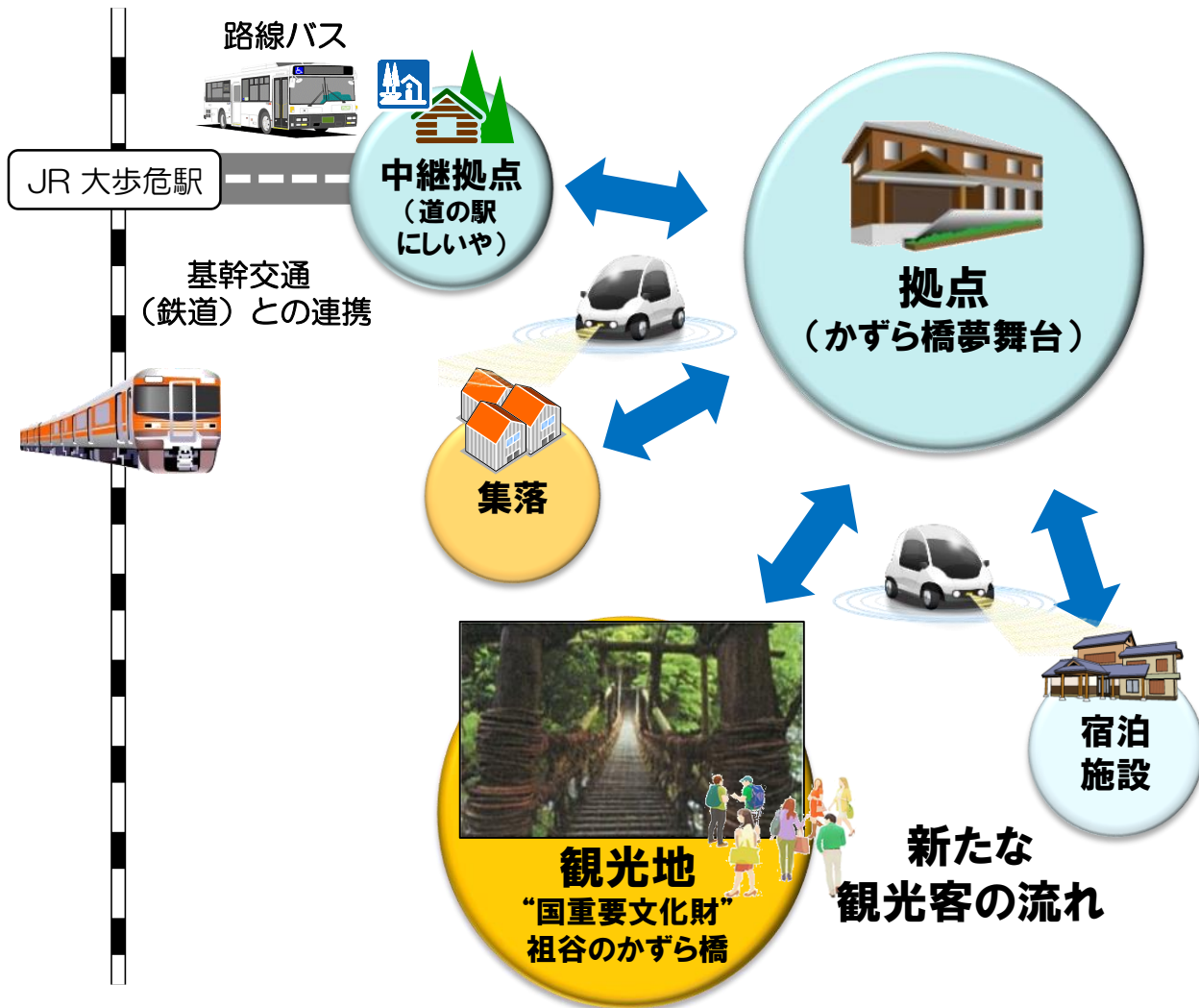
[0.3km]



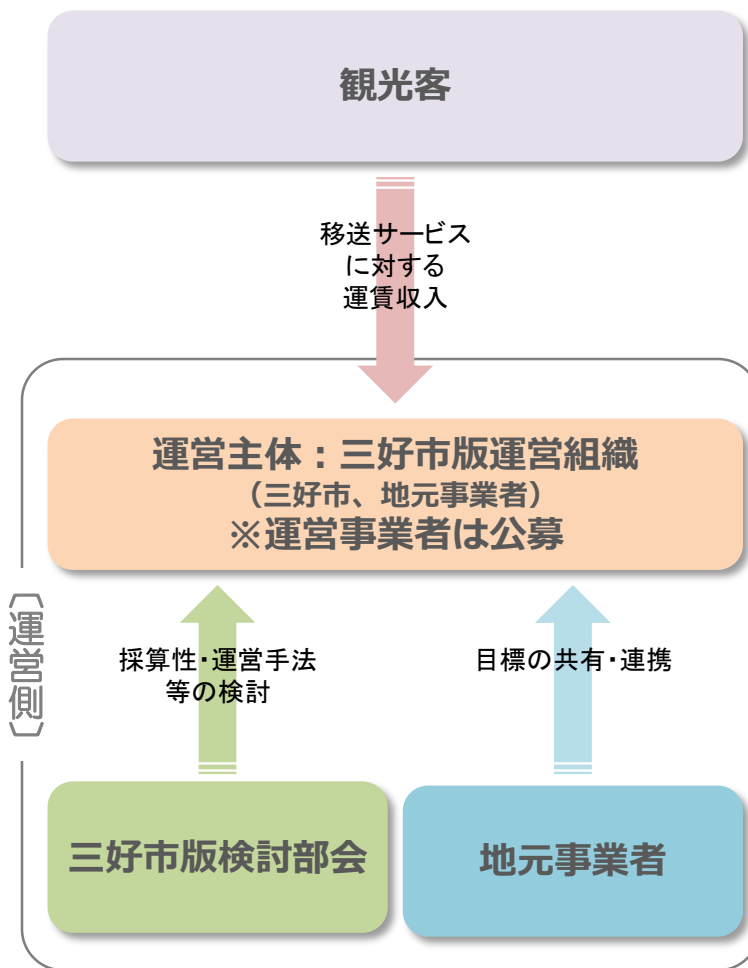
項目	実験において検証する内容
①道路・交通	<ul style="list-style-type: none"> ○相互に円滑な通行のための道路構造の要件 <ul style="list-style-type: none"> ・後続車の追い越しを考慮した幅員 ・待避所、停留所の設置 ・歩行者、自転車との分離方法 ○自動運転に必要なとなる道路の管理水準 <ul style="list-style-type: none"> ・植栽の繁茂 ・狭小幅員 ・路肩駐停車車両
②地域環境	<ul style="list-style-type: none"> ○Wi-Fi通信を用いた遠隔操作による走行状況の確認 ○降雨等による、LiDAR（光によるレーザー）の検知能力
③コスト	<ul style="list-style-type: none"> ○車両の維持管理コスト
④社会受容性	<ul style="list-style-type: none"> ○自動運転技術への信頼性、乗り心地
⑤地域への効果 (ビジネスモデルの検討含む)	<ul style="list-style-type: none"> ○新たな観光客の流れの創出 <ul style="list-style-type: none"> ・観光拠点(かずら橋夢舞台)や宿泊施設から周辺観光施設への送迎実験 ・路線バスとの乗り継ぎ利便性 ○運営主体のあり方 <ul style="list-style-type: none"> ・自治体や交通事業者等の役割分担 ○採算性確保の方策 <ul style="list-style-type: none"> ・将来の観光利用ニーズ(支払意思額、求めるサービスレベル等) ・将来の地域の協力体制(企業支援等) ○他事業との連携 <ul style="list-style-type: none"> ・実験参加者の将来参入ニーズ ・新たな連携先のニーズ

- 大型観光施設を拠点に国重要文化財(かずら橋)や周辺観光施設等を接続し、新たな観光客の流れを創出
- 国重要文化財を訪れる観光客の滞在型観光を促進

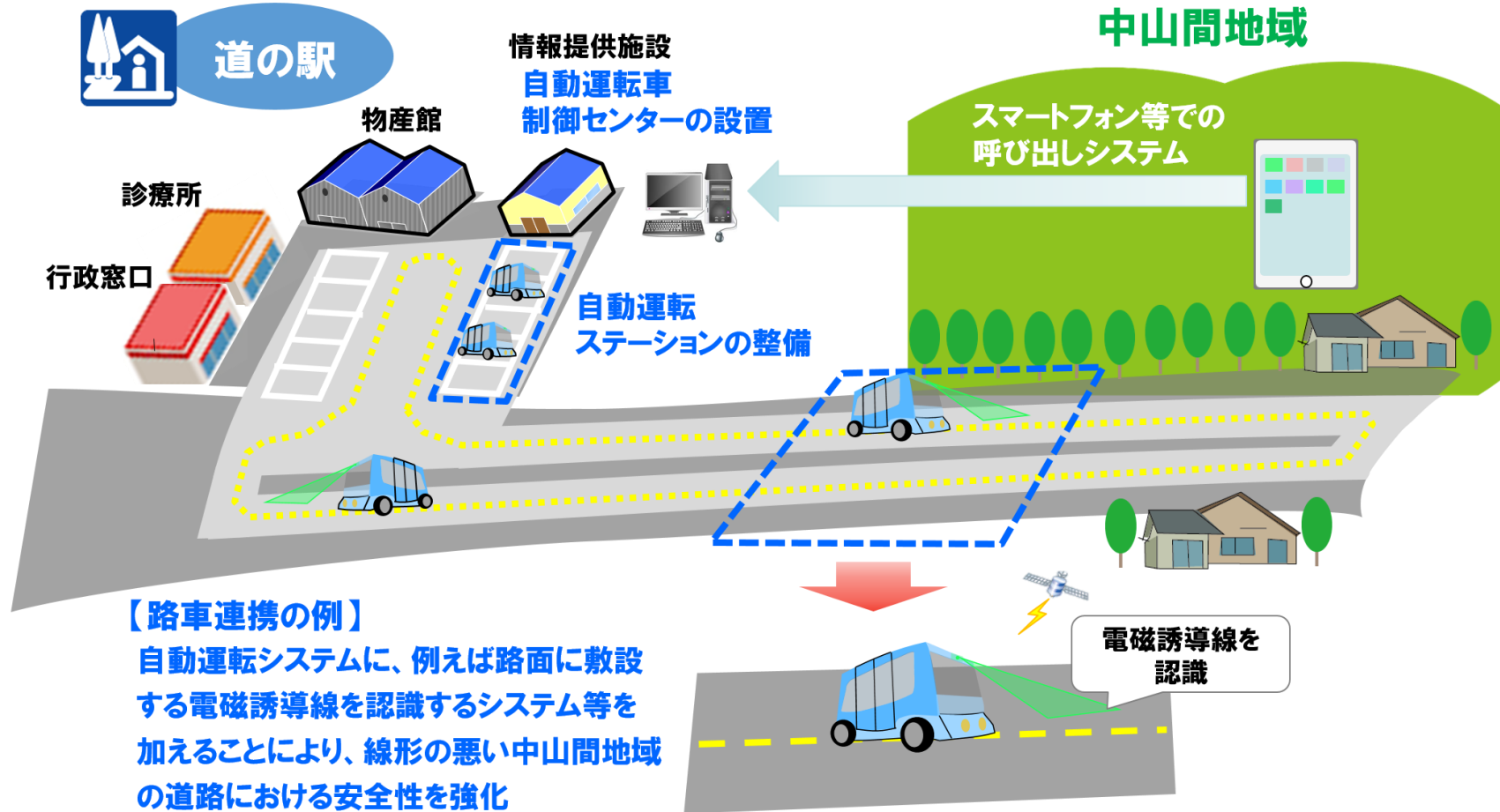
<サービスイメージ>



<ビジネススキーム>



● 高齢化が進行する中山間地域において、人流・物流を確保するため、「道の駅」等を拠点とした自動運転サービスを路車連携で社会実験・実装する。



物流の確保
(宅配便・農産物の集出荷等)

貨客混載

生活の足の確保
(買物・病院、公共サービス等)

地域の活性化
(観光・働く場の創造等)

全国13箇所で順次実験開始(9/2~)